

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 ジャナ アルナブ

本論文は、発展途上国における医療施設へのアクセシビリティを取り上げ、インドを対象として、既存調査等に基づき、その実態と課題を把握し、課題解決に向けた調査仮説を立て、二回にわたる独自現地調査とその分析により、その問題構造の把握と効果的な課題解決策の構築を検討したものである。

第一章では、「病気になった時に、望ましい施設が利用できないために、適切な治療を受けることが出来ない」というインドにおける実態に着目し、1)「何も治療しない」という医療施設からの社会的排除、2)公共医療施設の低い利用率と財政負担の増大、3)近くの施設ではなく遠くの施設に向かう時間のかかる「地域トリップ」の発生 of 三種類の課題を抽出し、これらの要因を明らかにし、その軽減策を明らかにすることを、本論文の主目的として整理した。

第二章は、既存研究のレビューであり、社会的排除や医療施設選択に係る要因として、立地条件や交通サービスといった空間的要因に加えて、治療サービスの質、スケジュールコスト、財政負担といった非空間的要因、治療に対する信念、態度、認識といった心理的要因が重要であると指摘されていることを整理した。第三章は、インドにおけるヘルスケア供給政策のレビューであり、圏域論に基づく施設配置政策、医療保険の改革論議等が中心であり、需要と供給のミスマッチに着目し、その要因を把握して対策を構築する議論は極めて不十分であったことを指摘した。

第四章は、既存調査(National Sample Survey on “Health & Morbidity” in 2004)を用いて、ヘルスケアサービスの選択実態を把握するとともに、独自調査により、その詳細な実態把握を試みたものである。具体的に、ウェストベンガル州の18歳以上を抽出し、治療しないが8%、民間医療施設利用が61%、公共医療施設利用が20%、近隣薬局が4%、家族等と相談が2%、その他の医療施設が5%の選択実態があることを把握し、都市部と田園部、富裕層と非富裕層の四つのセグメント別に、これらの選択要因を把握し、公共医療施設に対する不満や必要な治療を受けられないことへの不満が大きく影響していること、治療しないという社会的排除問題の軽減に向けては、サービス時間帯の拡張や治療

サービス種類の追加が有効であることを明らかにした。

第五章では、ヘルスケア施設の供給条件がアクセシビリティに与える影響に着目し、都市部(カルカッタ市内)と田園部(ウェストベンガル州のウェストミドナポア地区)を対象に、ヘルスケア施設とサービスデリバリーシステムの影響を論じた。都市部では施設規模は足りているがその偏在が問題であり、田園部は対照的に、供給不足が明らかであった。このため、田園部では、近隣医療施設の到達可能性を分析すると共に、近隣医療施設のサービス時間帯の延長や治療可能なサービスの追加が近隣医療施設の圏域を拡大する効果を明らかにした。これらの改善は、近隣医療施設の魅力を改善することを通して、治療に行かない、遠方施設利用といった望ましくない選択を減らすことになると考えられる。

第六章では、「地域トリップ」の発生に伴う同伴の必要性和役割について分析した。「地域トリップ」は、近隣医療施設の量的不足と質的不足のため、そして、民間医療施設は高額で利用できない場合が多いため、遠方のレベルの高い公共医療施設を利用せざるを得ない状況の中で生じるものであるが、予約システムが十分ではない中で需要が集中するため、遠方の医療施設の利用時間が特定できず、また、長距離移動を支える交通サービスが不十分で、親戚や知人宅への宿泊を伴わざるを得ないため、家族あるいは親戚や知人の同伴が必要となっており、同伴者の日常生活を犠牲にしていることを明らかにした。これらの結果から、同伴コストを伴う「地域トリップ」の削減は重要であり、そのためには、予約システムの導入や適切な交通サービスの提供が有効であると指摘した。

第七章では、外来治療に関する満足度の施設別の相違とその要因について分析した。その結果、近隣医療施設の魅力を改善するためには、サービス時間帯の拡大や治療サービス種類の追加が有効であること、ならびに、同伴者への依存を減らす観点から施設紹介システムの改善が重要であり、そのためには遠隔治療や救急サービスが有効であることを明らかにした。

第八章では、これまでの検討結果を踏まえて、近隣医療施設の利用を高めるためのオプションを構築し、比較した。その結果、ヘルスケア施設のアップグレードをベースに、フリートランスポートの提供、救急サービスの提供のニーズが高く、その選択には、年齢、世帯規模等の社会経済属性、病気のタイプに加えて、近隣医療施設の利用可能性の認識や医療施設への移動サービスに関する満足度が大きく影響していることを明らかにした。

以上より、本論文は、発展途上国の医療施設へのアクセシビリティに関して、これまで着目されていなかった三つの重要課題を選定し、インドを対象とする独自の調査と分析により、その要因を明らかにし、効果的な改善施策を明らかにしたと言える。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。